

平成26年度 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
10月20日	やや良	播種は平年より5日早い9月19日に行い、出芽期は6日早い9月26日であった。出芽後、平均気温は平年より高く経過し、葉数は0.9枚多く、草丈は4.5cm長く、茎数は207本/m ² 多い。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
5月20日	やや不良	平年より融雪期は早く、雪腐病の発生はごくわずかであった。起生期は4月10日で、起生期追肥は4月14日に実施した。4月中旬から5月上旬までの積算降水量は1.5mmで、平年比1.6%と極めて少なく、強い干ばつとなった。このため生育は緩慢となり、5月20日現在の草丈は平年より8.6cm短く、茎数は120本/m ² 少なかった。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
6月20日	不良	5月下旬から6月第1半旬まで高温多照・少雨の影響により、出穂期は6月4日で平年より4日早く、生育は進んでいる。一方、草丈は平年より短く、茎数はかなり少なく、生育量は平年より劣った。 以上のことから、現在の作況は不良である。
7月20日	不良	7月上旬は降水量が平年並で、登熟は緩慢となった。7月中旬は高温となったが、成熟期は概ね平年並みと見込まれる。稈長、穂長は平年より短く、穂数はかなり少なかった。 以上のことから、現在の作況は不良である。
8月20日	不良	成熟期は7月24日で、平年より1日早かった。平年に比べ、千粒重およびリットル重は平年より重く、2.2mm篩い上率は高かった。しかし、穂数がかなり少なかったため、子実重は平年比91%と少なかった。 以上のことから、現在の作況は不良である。
11月20日	不良	播種は平年より5日、出芽期は6日それぞれ早く、越冬前の生育は旺盛であった。平年より融雪期は早く、雪腐病の発生はごくわずかであった。起生期から5月3半旬まで降水量が極めて少なく強い干ばつとなり、生育量は平年より劣った。出穂期までは高温・多照・少雨傾向となり、出穂期は平年より4日早かった。登熟は、開花後降雨が続く緩慢となったが、7月中旬以降は気温が高めに推移し、成熟期は平年より1日早かった。成熟期の稈長、穂長は平年より短く、穂数はかなり少なかった。千粒重およびリットル重は平年より重く、2.2mm篩い上率は高かったが、穂数がかなり少なかったため、子実重は平年比91%と少なかった。検査等級は平年並みであった。 以上から、本年の作況は不良である。

生育データ

品種名	きたほなみ			
	項目/年次	本年	平年	比較
播種期(月日)		9.19	9.24	△ 5
出芽期(月日)		9.26	10.2	△ 6
起生期(月日)		4.10	-	-
出穂期(月日)		6.4	6.8	△ 4
成熟期(月日)		7.24	7.25	△ 1
葉数(枚)	10月20日	3.9	3.0	0.9
	11月15日	5.3	-	-
草丈(cm)	10月20日	21.5	17.0	4.5
	5月20日	38.4	47.0	△ 8.6
	6月20日	80.5	98.0	△ 17.5
茎数(本/m ²)	10月20日	626	419	207
	11月15日*	1,670	-	-
	起生期*	2,129	-	-
	5月20日	1,151	1,271	△ 120
	6月20日	521	768	△ 247
成熟期	稈長(cm)	74	90	△ 16
	穂長(cm)	8.1	9.0	△ 0.9
	穂数(本/m ²)	526	716	△ 190
子実重(kg/10a)		608	666	△ 58
同上対平年比(%)		91	100	△ 9
リットル重(g)		845	810	35
2.2mm篩い上率(%)		98.8	93.0	5.8
千粒重(g)		44.3	39.0	5.3
検査等級		2上	2上	-

備考1) 平年値は、前7か年中、平成25年収穫(豊作)、22年収穫(凶作)を除く5年平均。年次は収穫年。

備考2) △は平年より早、少、短を表す。*は越冬前後の茎数を示すが、平年値がないため本年分のみ示した。

耕種概要

一区面積(m ²)	区制	前作物	畦幅(cm)	播種日(月日)	播種量(粒/m ²)
9.6	4	緑肥トウモロコシ	30	9.19	255

肥料名	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	
S502	80	4	16	9.6	4	基肥
硫安	38	8	-	-	-	4.14
	19	4	-	-	-	5.30